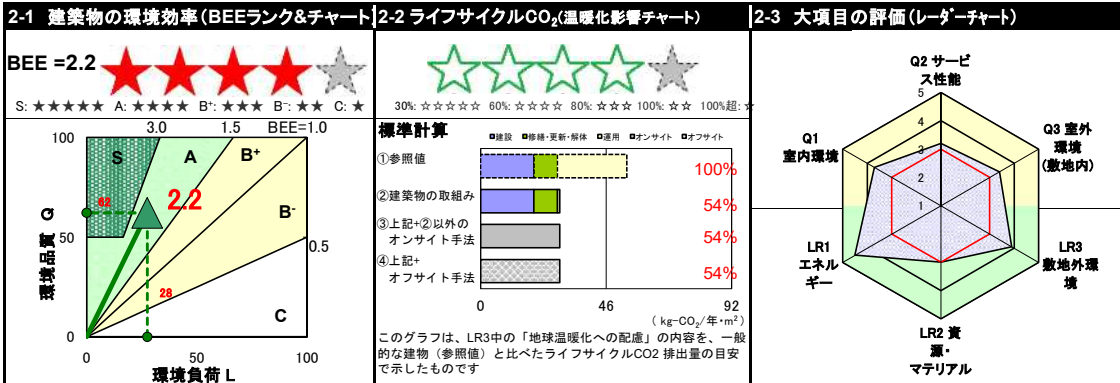
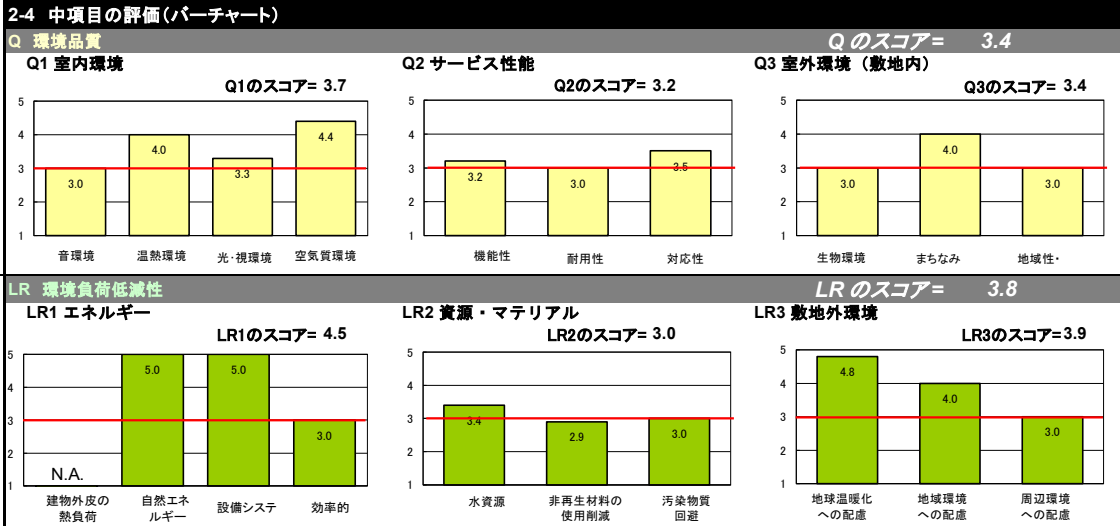


1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	MARUWA瀬戸第3工場	階数	地上2階	
建設地	愛知県瀬戸市幡中町267番1ほか10筆	構造	S造	
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	115 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	3,133 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年8月6日	
敷地面積	9,968 m ²	作成者	大崎・太田・田中	
建築面積	3,617 m ²	確認日	2025年8月6日	
延床面積	3,085 m ²	確認者	大崎・太田・田中	



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
4.8	3.0	63.8 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
3.0	1.0	0.0 %

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
MARUWA瀬戸第3工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階										
		独自基準				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分				
配慮項目		重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								0.30				3.4
Q1 室内環境												3.7
1 音環境						0.3	3.0	0.15				3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	3.0	0.40				
1.2 遮音						0.4	3.0	0.40				
1		開口部遮音性能						3.0	0.60			
2		界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0		
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0		
4		界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0		
1.3 吸音							3.0	0.20		3.0		
2 温熱環境						0.3	4.0	0.35				4.0
2.1 室温制御						0.6	3.5	0.63				
1		室温					3.0	3.0	0.38		3.0	
2		外皮性能	ガラスはLow-e複層ガラスを採用し、大庇により夏期直射日射が室内に入らないよう配慮している				3.0	5.0	0.25		3.0	
3		ゾーン別制御性					3.0	3.0	0.38			
2.2 湿度制御						3.0				3.0		
2.3 空調方式			ペリメーターは床出し、インテリアは壁吸出の床面吸込みとすることで良好な室内温熱環境を形成している			3.0	5.0	0.38		3.0		
3 光・視環境						0.2	3.3	0.25				3.3
3.1 昼光利用						0.3	3.0	0.30				
1		昼光率					3.0	3.0	0.60		3.0	
2		方位別開口										
3		昼光利用設備					3.0	3.0	0.40		3.0	
3.2 グレア対策			ブラインド+大庇による日射のグレア抑制			0.3	4.0	0.30				
1		昼光制御					5.0	4.0	1.00		3.0	
3.3 照度						3.0	3.0	0.15		3.0		
3.4 照明制御						3.0	3.0	0.25		3.0		
4 空気質環境						0.2	4.4	0.25				4.4
4.1 発生源対策						0.5	5.0	0.50				
1		化学汚染物質		F☆☆☆☆を全面的に採用			3.0	5.0	1.00		3.0	
4.2 換気						0.3	4.3	0.30				
1		換気量		30CMH/人の換気量を確保			3.0	4.0	0.33		3.0	
2		自然換気性能		排煙窓を利用した自然換気システムを採用			3.0	5.0	0.33		3.0	
3		取り入れ外気への配慮		外気取入口は排気口より6m以上の離隔を確保している			3.0	4.0	0.33		3.0	
4.3 運用管理						0.2	3.0	0.20				
1		CO ₂ の監視					3.0	3.0	1.00			
2		喫煙の制御					3.0					
Q2 サービス性能								0.30				3.2
1 機能性						0.4	3.2	0.40				3.2
1.1 機能性・使いやすさ						0.5	2.0	0.57				
1		広さ・収納性					3.0	3.0	0.33		3.0	
2		高度情報通信設備対応					3.0	2.0	0.33		3.0	
3		バリアフリー計画	独自				3.0	1.0	0.33			
1.2 心理性・快適性						0.4	5.0	0.43				
1		広さ感・景観 (天井高)		執務エリアは天井高2.8m以上、フルハイトガラスから屋外ランドスケープがどこからでも望めるようになっている			3.0	5.0	0.33		3.0	
2		リフレッシュスペース		来客ラウンジ、従業員ラウンジが整備されている			3.0	5.0	0.33			
3		内装計画		コンセプトに対し、内装・照明計画が一体となり、心地よい空間が演出されている			3.0	5.0	0.33			
1.3 維持管理												
1		維持管理に配慮した設計					3.0					
2		維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性						0.3	3.0	0.31				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.0	0.48				
1		耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80			
2		免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.3	0.33				
1		躯体材料の耐用年数	②					3.0	0.23			
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23			
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09			
4		空調換気ダクトの更新必要間隔		主に重鉛鉄板だが、ビット内など敷設場所に合わせ、ガルバリウム鋼板を採用。				4.0	0.08			
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:SGP-VA(B)、排水:VP(B)、消火:SGP(白)(C)を採用				5.0	0.15			
6		主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23			
2.4 信頼性						0.1	2.4	0.19				
1		空調・換気設備					3.0	1.0	0.20			
2		給排水・衛生設備					3.0	2.0	0.20			
3		電気設備	②				3.0	3.0	0.20			
4		機械・配管支持方法		機器設置、配管支持は耐震クラスA			3.0	4.0	0.20			
5		通信・情報設備					3.0	2.0	0.20			

3 対応性・更新性			0.2	3.5	0.29	-	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		1階階高 最低6.3m	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		外周長さ(3.6+80+4)m ÷ オフィス面積(≒防煙区画面積)458.91m ² =0.2	3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.2	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性		主要機器は機械室に設置し、搬入ルートを確認している	3.0	4.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.40	-	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	市道挟んだ1期工場と親和性の高い建築・外構計画として、一体感ある景観を演出している	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		広大な敷地にランドスケープおよび緑化を施している	-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用		自然換気システム、クール&ヒートトレンチの採用	3.0	5.0	0.13	-	-	-	5.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.14	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水型器具の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	独自		3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	OAフロアの採用	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.9
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率54%	-	4.8	0.33	-	-	-	4.8
2 地域環境への配慮			0.3	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		風環境の調査、広大な緑地、低いBEI値など	-	4.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	敷地出入口はIN/OUTに対し、トラックを想定し、十分な広さがある	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2 振動	独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
3 悪臭			-	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

MARUWA瀬戸第3工場

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.8	0.10	3.0
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	外構緑化：63.8%/建物緑化：0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 MARUWA瀬戸第3工場

計画上の配慮事項	
総合	RISING-INNOVATION 「登り窯」をモチーフにしたさらなる創造の拠点 ①地域の一体感を生む「大庇」 日射を抑制しながら、周辺環境を取り込む ②オフィスエリアを階段状し、内外に見通しの良いオフィス空間 細長い形状を活かした自然換気とクール&ヒートトレッチ ③第1工場のランドスケープを高い視点で望み、緑が連続する
Q1 室内環境	オフィスエリアは空調気流シミュレーションにて、複数システムを比較検討し、階段状かつ上部天井ルーバー吹抜の特徴的な空間に対し、最も効率的かつ、均一な温熱環境を実現できる空調システムとしている。 F☆☆☆☆を全面的に採用、換気量は30CMH/人および自然換気システムも併用し、働く人に対し、良好な空気質環境となっている。
Q2 サービス性能	オフィスエリアで働く従業員に心地よい空間が演出されている。 耐久性、部材の信頼性高く、オフィスレイアウトの自由度の高い建築で、永く活用できる建物になっている。
Q3 室外環境(敷地内)	オフィスエリア前面に大きなランドスケープを計画し、既存第1工場を含めた周辺環境の一体化に配慮している。
LR1 エネルギー	自然換気システム、クール&ヒートトレッチにより、年間を通じた外気負荷のエネルギー消費量を自然エネルギー活用で低減させている。 特徴的な大きな庇は夏期の直達日射がオフィス内に入らないように計画されており、スキンロードを低減し、ペリメータ周りの温熱環境を向上させている。
LR2 資源・マテリアル	衛生器具は節水型器具を基本とし、水使用量を低減している。
LR3 敷地外環境	ガス燃焼機器は無く、省エネ化により運用時のCO2も抑えられている。
その他	